

< 2020年 8月 >

古賀 順子

### 「COVID-19 パリから九州へ」

30 度を超える暑さになっても新型コロナが収束しないフランス、外出時のマスク着用義務や多くの制限を受けながらも夏のバカンスが続いている。今年の夏は私もパリを動かなくつもりだったが、家族に不幸があり一時帰国をしている。

7 月中旬からヨーロッパ・シェンゲン圏内の国境が開き、少しずつ空の便が動き始めた。EU 圏外に関するフランスの対応は、中国、ロシア、アメリカ、ブラジルは依然として国境を閉じているが、日本人のフランス入国は許可されている。検温やPCR検査もなく、入国後の2週間自宅隔離もない。フランスへの日本人入国は歓迎だが、日本入国はそう簡単ではない。

現在、日本に入国できるのは日本国籍を持つ者に限られ、日本の国際線空港に到着後 PCR 検査が義務付けられている。空港から自宅へ公共交通機関(国内線、新幹線、列車、電車、バス、タクシーなど)を利用せずに帰宅できる乗客に限り、PCR 検査後、結果を待たずに空港を出ることができる。つまり、家族が空港まで迎えに来るか、自身でレンタカーを用意しておくか。公共交通機関を利用して地方に帰る乗客、日本に自宅がない乗客は、空港で PCR 検査を受け、結果を待ち、陰性に限り、事前予約しておいたホテルやウイークリーマンションで2週間の隔離を過ごさなければならない。2 週間は人と会ってはならず、ホテルからの外出も禁止である。ハードルは高い。

実家が九州の私にとって2週間のホテル隔離を回避できる方途は家族に空港まで迎えに来てもらうしかない。通常はパリ・羽田・福岡便で帰省しているが、今回は成田空港や羽田空港は遠すぎる。7 月から週 2 便飛び始めた関西国際空港行きを選んだ。直行便はなく、パリ、アムステルダム経由、大阪着だ。

空港での PCR 検査に何時間もかかり、結果待ちには 2-3 日かかると聞いていた。検査結果もストレスだが、二日も三日も空港に足止めされるのは辛い。

7 月末からフランスでは PCR 検査を無料で受けることができる。それまでは処方箋のある者は無料、症状のない希望者は 70-75 ユーロが必要だった。特に無症状の若い人にとって 70 ユーロの負担は高く、新規感染者が増える一方のフランスで無料検査は必須との判断である。

私もパリを発つ 72 時間前に PCR 検査を受け、結果は陰性。その前に抗体検査も受け陰性。安心して飛行機に乗った。

パリ、アムステルダム、大阪、どの空港も閑散としていた。店の多くは閉まっており、地上に釘付けになった飛行機の数に驚いた。乗換え毎に検温、健康状態チェックがあり、機内サービスも最小限で、アムステルダムから大阪への KLM オランダ航空機内ではお菓子袋(水ペットボトル 2 本、缶コーラ 1 本、サンドイッチ、ゴーダチーズとビスケット、シリアルバー、板チョコ、みかん 2 個)が配られ、大阪までサービスはなかった。併せて関空検疫所に提出する質問表、記入書類が配られ、機内で書類記入をした。

関西国際空港検疫所での PCR 検査待ち時間を危惧していたが、午前中到着便で、2 時間の待ち時間で検査が受けられたのは本当に幸運だった。

家族の迎いで大阪から福岡まで高速道路で帰宅した。翌日検疫所から電話があり、結果は予定通り陰性。今日はお盆の 15 日。自宅で隔離 2 週間を終えようとしている。市の保健所予防課から毎日電話があり、体温、咳やくしゃみ、頭痛など風邪の症状がないか健康状態チェック、外出して人と会っていないかの確認が行われる。フランスでは考えられない対応で、日本の感染者が少ないのも納得だ。

帰省がこれほど遠くなるとは思っても寄らぬことだった。これまで簡単に東京・パリを往復できていたのが嘘のような二夜三日のパリ・九州移動。新型コロナが一日も早く終わることを願うばかりだ。(古賀順子)

8月下旬パリに戻られた古賀さんから届きましたメールの一部を紹介します(小原靖夫)

帰りの便は関空からパリへの直通、夜行便でした。関西国際空港はまるで廃墟のようでした。お店はすべて閉まっていました。夕食は唯一開いていたスターバックスのサンドイッチ。人がいません。照明も必要な場所だけで国際線出発エリアは暗くて怖いくらいでした。パリ行きは総勢30名程度でした。そのうちロシア人グループ(8名)、南米系グループ(4名)、スペインに住む日本人家族(4名)はパリで乗り継ぎ、スペインに行きました。

パリで降りたのは、日仏家族(4名)と個人客数名、フランス人2名くらいでした。

機内は3人席に1人で、それでも誰もいない列もかなりありました。これでは航空会社はやっていけないだろうと痛感しました。機内サービスも行きと同じく、袋に入った食事でした。パリ CDG 空港は早朝に到着したこともあってか、職員も誰もおらず、検温も PCR 検査もなくスルーパス。万一コロナ感染者が飛行機に乗っていた場合(南米系があやしい?)に備えて、座席番号と住所を提出しただけでした。コントロールは一切ありませんでした。何の事もなくフランス入国できました。日本との差に愕然としました。

日本の入国制限がもう少し緩和されましたら(自宅隔離がせめて1週間など) 嬉しいです。

20度を超えないパリに戻りました。

冷房なしで、緊張が解けたせいかぐっすり眠れますが、逆に寝過ぎでぐったり疲れます。

パリの気温にまだ身体が慣れません。

九州の灼熱の太陽と物凄い湿気のが身体から抜けません。楽なようで疲れます。しばらく時間がかかりそうです。

